

10/07 - 10/13

大阪ヘルスケアパビリオン
「リボンチャレンジ」



金属3Dプリンティング
やレーザー焼入れなどの
先進技術で強みを発揮

単品・大型品・小ロットに対応し、製品開発のための試作に貢献

1958年に高周波焼入れ加工の専門メーカーとして創業した富士高周波工業株式会社。今日まで65年を超える実績を積み重ね、今では単品・大型品・小ロットといったインライン化できない加工で優位性を発揮しており、自動車をはじめとするさまざまなメーカーの製品開発の一端も担っています。

また、十数年前から導入しているレーザー焼入れのほか、レーザークラディングや金属3Dプリンティングなど、全国にも数少ない設備を備えて、先進技術の導入にも積極的です。

免許なしで乗れる「水陸両用マルチパーパスモビリティー」を出展

大阪・関西万博(以下、「万博」という。)では、同社と同じく製品開発のための試作などを得意とする企業2社とタグを組み、気軽に誰もが乗れる「水陸両用マルチパーパスモビリティー」を出展します。いわゆる水上でも陸上でも乗れる自転車もしくはバイクです。具体的な利用イメージとしては、船を使わないと移動できない小さな島などに住んでいる高齢者用のモビリティー、あるいは川や海でのアクティビティ用などで例えば道頓堀などでの観光ツールにもなりえるものを想定しています。

金属3Dプリンティングで製作した部品を使って技術力を訴求

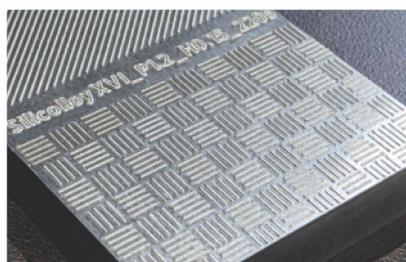
万博に出展する意義の一つは、部品の製造で活用する金属3Dプリンティングのアピールにあります。同社が2024年に開設した3Dプリンティング研究所を拠点に注力している先進技術で、まだ国内でも手がけている企業が少なく、同社の強みとなっています。1メートル角の大きな造形も可能で、切削加工による材料のロスが低減できるほか、切削と比較しても短時間で製作できることがメリットです。少子化で人手不足が深刻化する製造業で、職人の人の手でしかできない技術の高度化に特化するために、一方で新しい技術による省力化の重要性を訴求したいと考えています。



高周波焼入れ



レーザー焼入れ



精密レーザークラディング

企業概要

所在地 〒590-0001
堺市堺区遠里小野町2-3-15
TEL 072-229-0230
設立年 1958年
資本金 1,800万円
従業員 27名

公式サイト

さかしる



自分たちの技術力に改めて誇りを持ってもらえる機会に



専務取締役
後藤 有吾 さん

大阪・関西万博の会場では、パネルや映像ではなく、ぜひ実物を見ていただきたいと考えています。出展する水陸両用マルチパーパスモビリティーはすぐさま商品化を目指すものではなく、大阪の中小企業の持つ技術力をアピールするもので、いわばコンセプトカーです。

また、今回の出展が、当社の技術力のアピールばかりでなく、当社の従業員たちが家族や友人を案内するなかで、改めて自分たちの手がけている仕事に誇りを持ってもらえることが最も大切だと考えています。

事業内容

ベアリング、ギヤ、シャフトなどの産業機械部品全般の高周波及びレーザーによる部分焼入れ

主な取引先（納入先）

各種メーカー

主な製品・サービス等

高周波焼入れ、レーザー焼入れ
レーザークラディング
金属3Dプリンティング